

## 市民のみなさまへ

平成19年4月  
津市防災危機管理室

このたび、東海・東南海・南海地震に備えて自主防災会の協力のもと「津市地震防災マップ」を地区単位で作成しました。

地震の発生を避けることはできませんが、被害を最小限に食い止めることは可能ですので、この地震防災マップを最大限活用して、いざという時に備えてください。

### 「地震防災マップ」を使って被害を最小限に

この「マップ」は、東海・東南海・南海地震が同時に発生した場合の最悪の状況を想定し、震度のほか地盤の液状化危険度や急傾斜地崩壊危険箇所、津波による浸水域の分布等を示しています。

この地図をよく見ていただくと、地震時の自宅周辺の様子が予想できますので、その状況に応じた対策を考えてみましょう。

例えば、次のような対策です。

- 震度5弱以上の地区では、建物の耐震診断や耐震補強、家具の転倒防止などの対策が必要です。特に昭和56年5月以前に建築された木造住宅は市の無料診断や補強及び家具転倒防止補助金を御活用ください。
- 液状化危険度の高い地区では、建物の耐震補強と併せた地盤改良の対策が必要です。
- 津波浸水予想地区では、耐震化されている3階以上の建物や津波影響区域外への避難などの対策が必要です。



この地図には、避難所・一時避難場所も記載してありますので、これらの場所を確認いただくとともに、避難する場合の経路に危険箇所がないか、実際に歩いてみましょう。

日頃から家族みんなで防災について再度真剣に考え、自分自身や家族の尊い生命や財産を災害から守る備えをしましょう。

## ※ マップについて

このマップは、東海・東南海・南海地震が同時に発生した場合に、津市における震度、液状化危険度などを地区境界の周囲約 100m 外側まで示したものです。具体的には、三重県が平成 17 年 3 月に作成した「三重県地域防災計画被害想定調査報告書」及び平成 16 年 3 月に作成した「東海・東南海・南海地震対策に係る津波シミュレーション調査報告書」等のデータを基に、約 500m 四方の区画（メッシュ）を単位として作成したものです。（津地域においては平成 17 年に作成した地震防災マップの既存のデータを活用して作成しています。）しかし、現実の地震は、今回想定した地震と異なる場合もありますので、マップに書かれた震度、液状化危険度、津波浸水域分布が同じ分布とならないこともあります。

また、このマップの基図となる都市計画図につきましては、既存の図面としては最新の図面を使用しておりますが、作成してから数年以上経過しているものもありますので、現状とあっていない部分もありますが御了承ください。

## 地域みんなで備えを(自分たちのまちは、自分たちで守る)

災害が発生したら、市や防災関係機関は、総力で救助・防災活動に取り組みます。

しかし、大きな災害であればあるほど建物の倒壊、火災、水道管・道路の破損などで消火・救出・救護などに十分対処できない場合も考えられます。阪神・淡路大震災においても、地域住民が協力し合って初期消火を行い延焼を防止した例や、救護活動を行い命を救った事例も多く見られ、地域における自主的な防災活動の大切さが認識されました。

被害を最小限に食い止めるには、地域の皆さんの協力体制が不可欠です。家庭での防災への取り組みを軸に、地域の防災活動にも参加し、みんなで災害に負けないまちづくりを進めましょう。



### 【問い合わせ】津市防災危機管理室又は各総合支所総務課防災担当

防災危機管理室	229-3104	久居総合支所	255-3110
河芸総合支所	244-1700	芸濃総合支所	266-2510
美里総合支所	279-8111	安濃総合支所	268-5511
香良洲総合支所	292-4376	一志総合支所	293-3138
白山総合支所	262-7011	美杉総合支所	272-8081